

港と日本酒に関する調査研究（その2）

港と社会研究会

1. 港と日本酒に関する調査研究の概要

当研究では、港と関係が深い日本酒を探し出し、味わい、場合によってはみなとまちの酒蔵を探訪し、港と日本酒の歴史や文化を考察するとともに、さらに港の酒蔵ツーリズムを企画提案し、港町や地域の活性化につなげることを目指している。この目標の下、研究会の活動実績としては以下のものがある。

1) 港の日本酒試飲会の開催

本研究会で厳選した銘柄を賛助会員メンバーの方々と一緒に嗜み、日本酒の魅力について語り合った。

2) 日本酒とクルーズのコラボレーション企画の提案

クルーズ船のオプションツアーとして寄港地を起点とした酒蔵ツーリズム等を提案するものである。この活動実績として、郵船クルーズに企画提案した飛鳥Ⅱの金沢港及び秋田港寄港時の酒蔵ツーリズムが実現し、成功を収めた。

3) 酒蔵の探訪

みなと総研の研究者が出張先で酒蔵を積極的に訪問し、その体験談を紹介する活動である。WAVEの活動は、日本列島の北から南までを網羅しており、全国の酒蔵情報を独自の観点から集約することが可能である。

このうち、3) 酒蔵の探訪については前回のレポートに取り上げているので、本稿では、1) と 2) の活動実績について以下に紹介する。

2. 港の日本酒試飲会の開催

港の日本酒ということで、当研究会では、港から 10km 圏内の酒蔵を日本全国で抽出した上で、更に話題性などを鑑みて 50 銘柄を抽出した。試飲会は、平成 27 年 5 月に港友研究会として、講師に日本酒輸出協会の松崎会長をお迎えし、海沿いと山沿いでの日本酒の違いや日本酒と港・海運の関係などを講演して頂き、その後に試飲会を行った。

試飲会では北海道から九州までの銘柄 10 種の純米酒を取り寄せて、松崎会長のレクチャーのもと参加者による品評会も行った。



日本酒輸出協会 松崎会長のご講演



試飲会風景

銘柄	酒蔵	県	近港
国稀	国稀酒造	北海道	増毛港
浜千鳥	浜千鳥	岩手	釜石港
初孫	東北銘醸	山形	酒田港
ㇿ張鶴	宮尾酒造	新潟	岩船港
鶴乃里	菊姫合資会社	石川	金沢港
白老	澤田酒造	愛知	衣浦港
白鷹	白鷹	兵庫	神戸港
雨後の月	相原酒造	広島	呉港
酔鯨	酔鯨酒造	高知	高知港
鍋島	富久千代酒造	佐賀	鹿島港

全国から取り寄せた日本酒

3. 日本酒とクルーズのコラボレーション企画の提案

1) みなと総研が提案する日本酒クルーズ企画の内容

(酒蔵めぐりオプションツアー)

全国各地では酒蔵ツーリズムの取組みとして、趣向を凝らした活動が展開されている。酒蔵ツーリズムの事例を挙げると、ワンコインで 94 の酒蔵の代表銘柄を飲む「ぼんしゅ館」(新潟)、酒めぐりチケットを片手に温泉街の旅館や飲食店で試飲を楽しむ「酒天湯子」(新潟)、「どぶろく仕込み体験」(富山)、その他、ボランティアガイドによる酒蔵通りの案内や酒蔵バスツアー、または年一度の酒まつりイベントなど様々な取組みがあり、賑わいを見せている。

これらの酒蔵ツーリズムとクルーズを結びつける取組みとして、寄港地を起点とした酒蔵めぐりのオプションツアーの設定が有効であろうと考えた。ツアーを企画する上で留意すべき点として、以下の事項が挙げられる。

- a)クルーズ船寄港地から目的地までの移動時間は片道 1 時間 30 分以内とする。
- b)現地施設では約 40 人程度 (バス 1 台分) の受け入れキャパシティがあること。
- c)途中で食事が出来る場所があること。
- d)特に重要な事項として、クルーズ客のニーズを満足させるインパクトや希少性があること。

なお、当研究会ではじめに提案した日本酒クルーズ企画は以下のとおりであり、ほとんど実現している。

- ①日本酒の講演：日本酒の専門家を講師に迎え、日本酒に関する新たな発見や利き酒の楽しみ方のレクチャーを受ける。
- ②船内試飲会の開催：船内で利き酒会を催す。日本酒好きな人はもちろんのこと、そうでない人にも日本酒を身近に触れてもらう。
- ③船内販売：船内において、提供した日本酒をお土産品として販売する。また、魅力ある酒器を品揃えて販売する。
- ④寄港地での酒蔵めぐりツアー：日本酒の講師とともに酒蔵をめぐり、酒蔵独特の酒造りや歴史に触れお勧めの地酒を楽しむ。
- ⑤夜の寄港地体験：地元の小料理屋などで郷土料理とともに地酒を堪能する。



試飲会





日本酒および酒器の販売



酒蔵めぐり

私は⑤を是非お勧めしたい。地元の日本酒のみでなく、そこでしか堪能できない食材を愉しめるばかりか、その街の住民になったかのような気分を存分に愉しめる。また、北九州発祥の角打ちツアーなども良い。その寄港地ならではの愉しみ方が出来ることで、興味・満足度は高いと思う。

以下に、実際に企画提案し実現した酒蔵めぐりツアーについて紹介する。

2) 飛鳥Ⅱによる金沢港オプションツアー

当研究会は、日本酒クルーズ企画を郵船クルーズに提案するため、担当者と調整を行い、企画案のレビューを重ねた。この結果、平成 27 年飛鳥Ⅱ秋のクルーズでの金沢港寄港時に当研究会提案の酒蔵めぐりツアーが採用された。

金沢近郊の金谷酒造店の酒蔵を巡り、酒蔵の歴史や酒造りに触れて、試飲を愉しんだのち、酒蔵をリノベーションした趣のあるレストランでフレンチ懐石料理を日本酒とともに堪能する。

このツアーは、ガイド役の金谷酒造店会長が飛鳥Ⅱのツアー客からの多くの質問に丁寧に答えて頂いたこと、また、古い酒蔵でフレンチを日本酒で食する趣のある趣向ということで好評を得ることが出来た。また、飛鳥Ⅱの乗客は日本酒をはじめ各種土産を購入し、実に多大な売上効果があった。このようにツアーの成功が地域経済効果に結びつくことを改めて認識した瞬間であった。因みに郵船クルーズからこのツアーが今後も継続される可能性が高いと聞いている。



金谷酒造店見学風景



酒蔵でのフレンチ懐石



お土産購買風景

3) 飛鳥Ⅱによる秋田港オプションツアー

前項のツアー企画の成功を踏まえ、当研究会は第2弾として秋田港における日本酒クルーズ企画を提案した。秋田県は言わずと知れた日本酒のメッカで、各地に有名な酒蔵が点在している。今回の企画では、酒蔵巡りだけでなく、地域の観光地と合わせてツアーの魅力を高めることにも留意した。それは、単独ではニーズが不十分な観光地も、酒蔵との組み合わせで、魅力ある観光ツアーにしたてることが可能と考えたからである。今回提案した企画は2つあり、1つ目は、角館と周辺の鈴木酒造店を巡るツアーで、この鈴木酒造店は酒蔵の中に豊臣秀吉や織田信長からの寄贈品を所蔵する文庫蔵を持ち、希少性この上ない酒蔵である。2つ目は、県南部のにかほ市の飛良泉本舗と象潟を巡るツアーである。飛良泉本舗は秋田県最古の酒蔵であり、複数の試飲の提供がある酒蔵で

ある。また、象潟の九十九島は、田園の中に九十九の岩山が点在する景勝地であり、松尾芭蕉が訪れ俳句を詠んだ地でもある。平成 28 年 5 月の飛鳥Ⅱの秋田港寄港において、今回の提案の一部が実現されたと聞いている。

この他にも、平成 28 年 6 月の飛鳥Ⅱの春の日本一周クルーズにおいて、前号で紹介した酒サムライコーディネーターの平出淑恵氏に乗船いただき、船上での日本酒講演を行い、また能代港、両津港（能登）、金沢港からのオプションツアーで酒蔵巡りのガイドを行う運びとなっている。本件もみなと総研の企画提案によるものである。



鈴木酒造店



鈴木酒造店の文庫蔵



象潟の芭蕉像

4. おわりに

当研究会が提案した、日本酒クルーズ企画がこれからも継続され、さらに日本全国に広がっていくことを大いに期待したい。そのためには、クルーズ船が寄港する日本全国の酒蔵を対象にした様々なシチュエーションでの日本酒クルーズ企画が重要である。そして、こうした企画が地域活性化に繋がるのであれば、やり甲斐のある取り組みではないかと考えている。

(文責：みなと総研 主任研究員 松本秀司)